上野通明さん応援レポート

東京フィルハーモニー交響楽団
第870回オーチャード定期演奏会
2015年10月18日（日） Bunkamura オーチャードホール

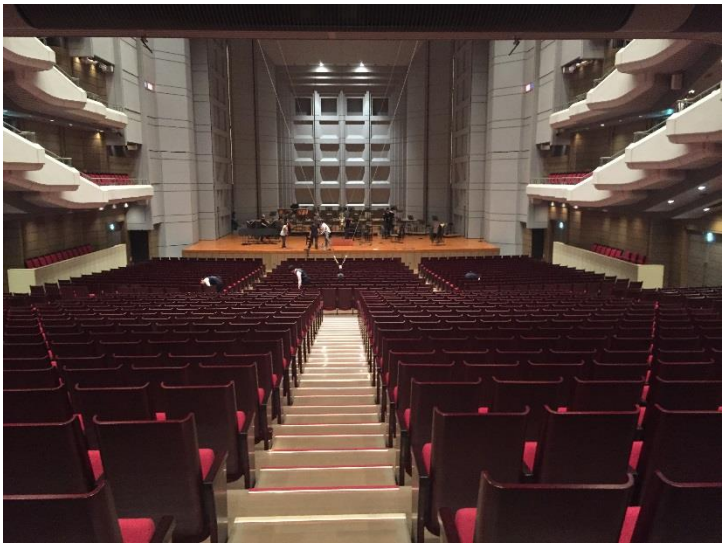
オーケストラと奏でるスラヴの調べ

「東京フィルハーモニー交響楽団」、2011年に創立100周年を迎えた日本最古にして最大（楽団員数）の交響楽団である。楽団の拠点のひとつであるBunkamura オーチャードホール(東京・渋谷)にて開催される「第870回オーチャード定期演奏会」。指揮は『炎のコバケン』こと小林研一郎氏、上野さんは、チェロのソリストとして登場する。

会場のオーチャードホールは、天井が高く、垂直の両側壁、浅いバルコニーを持つシューボックス型ホール。楽団も最大規模なら、ホールもまた国内最大規模である。

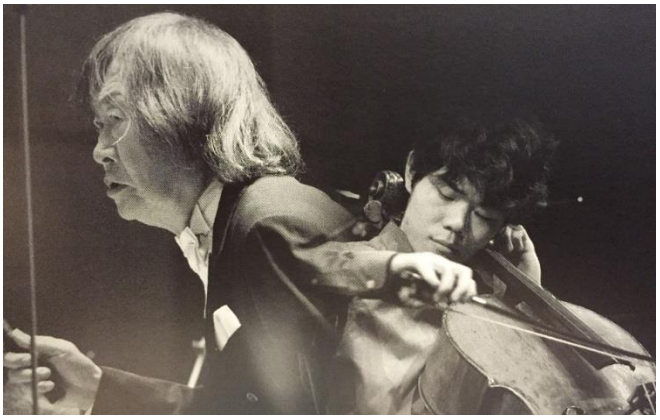
この秋からデュッセルドルフでの留学生活を始めた上野さん。
受験のための渡欧から、そのまま新学期が始まり目まぐるしい日々とのこと。
「・・・が、色々なことがとても新鮮です！
この新しい環境がこれから自分の演奏にどんな影響を与えてくれるのか楽しみです」と、フレッシュなメール。
今回のオーチャードホールの演奏については、
「・・・・少しずつでも変化している自分を感じて頂ける様、毎回新しい気持ちで精いっぱい心のこもった演奏をし、曲の素晴らしさを皆様に伝えられたらと思います」と、
力強いコメントをくれている。

不動の名曲を熱き指揮のもとに



上野さんが演奏するのは、ドヴォルザークの代表曲として親しまれる「チェロ協奏曲ロ短調　作品104」。協奏曲というジャンルにおける最高傑作の一つであるといわれ、クラシックにおける不動の名曲とされている。

コンサート・フライヤーには『重なり合う、若き天賦の才能と円熟の技』との紹介文。”炎のコバケン”と上野さんによる、熱き演奏に期待が高まる。



コンサート・フライヤーより転載

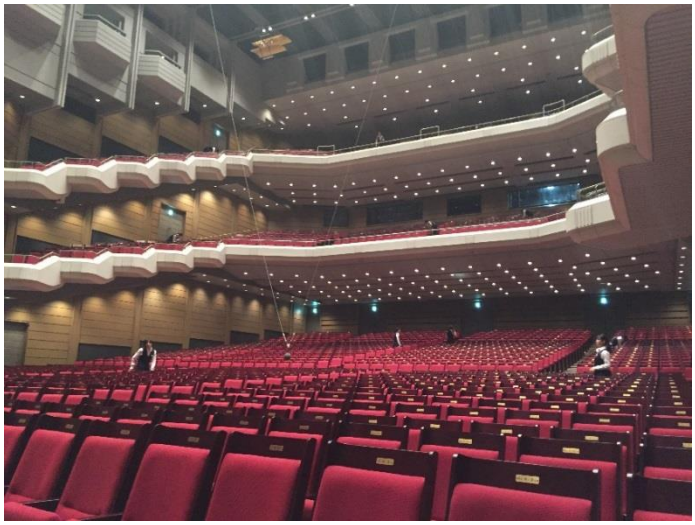
写真はリハーサル時のもの

大会場の大きな拍手に迎えられ、ソリスト上野さん登場。オーケストラによるしばしの演奏ののち、上野さんのチェロが始まった。力強くダイナミックなテーマが響き渡る。
2楽章は、ゆったりと大きな歌い方で曲が進む。クラリネットと、フルートと・・・さまざま楽器と絡み合いながら。
ぐっと展開をみせる第3楽章、上野さんの気持ちの乗りを表すかのように、大きく、さらに大きく弾いていく。なんというか、スラブの大地が思い起こされるかのような。
名曲を、情感たっぷりに、スケール感大きく、おおらかに弾きあげた上野さん。会場内は絶賛の拍手。ブラボーの声も高らかに。

演奏を終え、握手に歩み寄る上野さん、
指揮者の小林研一郎氏は、熱いハグと両手「いいね！」のポーズで応えてくれた。

アンコール曲、大ホールにチェロの音だけが鳴り響く

拍手は鳴り止まず、“コバケン”に促され、背を押されて再登場した上野さん、アンコールに選んでくれたのは、
「バッハ：無伴奏チェロ組曲第3番よりブーレ」
静まりかえる聴衆のみなさん。
オーチャードホールの広い会場に、上野さんのチェロの澄んだ音色だけが響きわたる。指揮者小林氏もオーケストラの方々も静かに耳を傾けるなか、荘厳に、かつ伸び伸びと。



お花の前でマエストロと

演奏を終えた上野さんを楽屋に訪ねる。大きな舞台を終えた満足感いっぱいの笑顔で答えてくれた。
「・・・ドヴォコン（ドヴォルザークのコンチェルト）は大好きな曲。どこを取っても、いいところばっかりなんです。・・・いや、むちゃ楽しかったです・・・」。
うわ、あの大きな舞台を“楽しんだ”なんて、かっこいい。

－第1楽章、チェロが始まるまでに、他の楽器による演奏の合間がある；
「・・・自分のパートに入るまでは、曲の情景を思い浮かべています。今日もそうだったんですが、だんだん緊張してきてしまいました（笑）・・・」

－指揮者の小林氏とは3回目の共演；
「・・・小林先生は、やりたいことを尊重してくださって。オケの方々も温かく、リハの時からいろいろ教えていただいて・・・」。たしかに、オーケストラとの一体感も抜群であった。

ぐんぐんと変化している上野さん、そして曲の素晴らしさ、確実に伝わってきた。
なお、当日の演奏は11月22日にNHK FMで放送されるとのこと。楽しみだ。

上野さん、素敵な演奏でした。
一時帰国の折には、また聴かせてください！

本日は衣装もぐっと大人っぽく

＜本日の演奏曲目＞
ドヴォルザーク／チェロ協奏曲 ロ短調　作品104
チャイコフスキー／交響曲第5番 ホ短調 作品64

＜アンコール曲＞
バッハ／無伴奏チェロ組曲第3番よりブーレ(チェロ)
ドヴォルザーク／ユーモレスク

指揮：　小林研一郎氏
コンサートマスター：　依田真宣氏

【コンサート・フライヤー】

2015-16シーズン 定期演奏会　Tokyo Philharmonic Orchestra　2015/16 Season

東京フィルハーモニー交響楽団

第870回 オーチャード定期演奏会

10/18[日] 14:30開場 15:00開演

会場:Bunkamuraオーチャードホール

錦秋に響くスラヴの調べ。
"炎のコバケン"が紡ぐ抒情と情熱。

指揮：小林研一郎

チェロ：上野 通明*

ドヴォルザーク
チェロ協奏曲 ロ短調 作品104*

チャイコフスキー
交響曲第5番 ホ短調 作品64

料金(税込):SS席(限定プレミアムシート)￥15,000 S席￥10,000 A席￥8,500 B席￥7,000 C席￥5,500
発売日:最優先(定期会員・賛助会員)7/2(木) 優先(東京フィルフレンズ会員)7/11(土) 一般7/16(木)
チケットお申込み・お問合せ:東京フィルチケットサービス03-5353-9522(平日10時～18時／土日祝休、7/11(土)10時～16時) http://www.tpo.or.jp
主催:公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 後援:文化庁 文化芸術創造都市振興事業(トップレベルの舞台芸術創造事業) 協力:Bunkamura

オフィシャル・サプライヤー　SONY　マルハン　楽天　Rakuten

10月のオーチャード定期公演 聴きどころ

重なり合う、若き天賦の才と円熟の技

10月のオーチャード定期演奏会ではクラシックにおける不動の名曲、ドヴォルザークのチェロ協奏曲とチャイコフスキーの交響曲第5番をお贈りいたします。1曲目に登場する上野通明は、2009年、13歳にして「第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」で日本人初の優勝を果たし、その後も数々のコンクールでタイトルを獲得するなど、現在最も将来が嘱望されているチェリストです。2曲目にお贈りするチャイコフスキーの交響曲第5番は、まさに"炎のマエストロ"小林研一郎の真骨頂であり、その指揮は「この曲を振るために生まれてきた」と謳われるほど。進化を続ける二人のカリスマ、その熱気溢れるコンサートをどうぞお見逃しなく。

〈チケットのお申込み・お問合せ〉東京フィルチケットサービス

TEL 平日10時～18時／土日祝休 [7/11(土):10時～16時]

03-5353-9522

WEB クレジットカード決済 24時間受付 [7/11(土):10時より]

http://www.tpo.or.jp/

SS席(限定プレミアムシート)￥15,000/S席￥10,000/A席￥8,500/B席￥7,000/C席￥5,500

【プレイガイド】
Bunkamuraチケットセンター 03-3477-9999
http://www.bunkamura.co.jp/orchard/
チケットぴあ 0570-02-9999 http://t.pia.jp/ [Pコード：262-715]
イープラス http://eplus.jp/
楽天チケット http://ticket.rakuten.co.jp/
ローソンチケット 0570-000-407 http://l-tike.com/ [Lコード：32625]
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

※演奏中及び楽章間のご入場はお断りしております。※やむを得ない事情により、出演者・演奏曲目・曲順などが変更されることがあります。※ご予約後のキャンセルは承れません。※公演中止の場合を除き、チケット代金の払い戻しはいたしませんので、ご了承ください。※未就学児のご入場はお断りしております。

演奏会のご案内

これを聴かずして
チャイコフスキーは語れない！
"炎のマエストロ"コバケンが繰り広げる
至極のチャイコフスキーワールド！

第48回千葉市定期演奏会

2016 **1/29**(金) 18:30開演　会場:京葉銀行文化プラザ

指揮:小林 研一郎

チャイコフスキー／
歌劇『エフゲニー・オネーギン』より"ポロネーズ"
弦楽セレナーデより第1楽章
バレエ音楽『くるみ割り人形』より"行進曲"
"トレパーク""葦笛の踊り""花のワルツ"
交響曲第6番『悲愴』より第3楽章
交響曲第5番より第2楽章
交響曲第4番より第4楽章

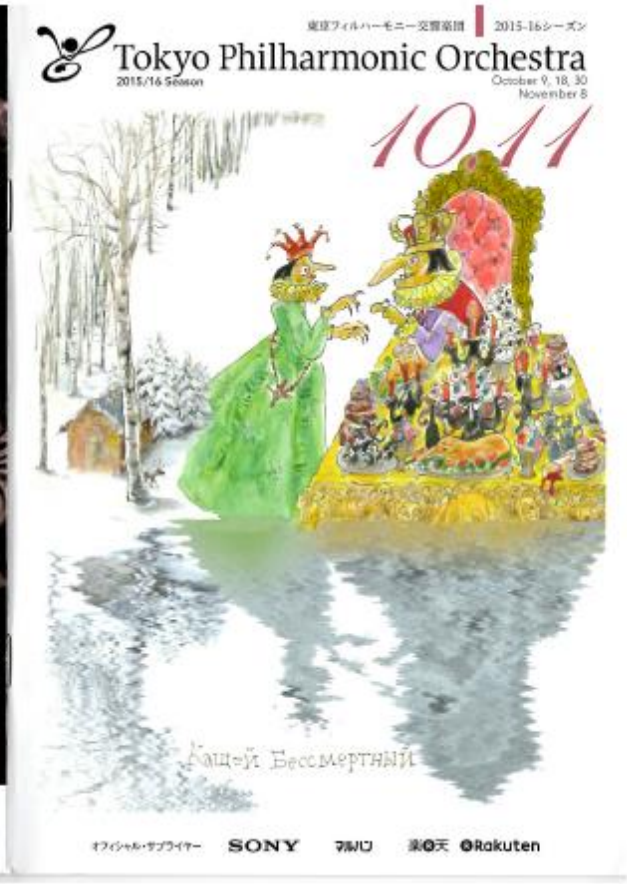
発売日:最優先[賛助会・定期会員]10/15(木)
優先[東京フィルフレンズ会員]10/24(土) 一般10/29(木)

チケット料金(税込)￥4,500

主催:(公財)東京フィルハーモニー交響楽団
共催:千葉トリニティ運営事業体　後援:千葉市

東京フィル　検索　TokyoPhilharmonic

【コンサート・パンフレット（冊子形式のため関連ページのみ掲載】



公演プログラム

第870回オーチャード定期演奏会

2015年10月18日(日) 15:00開演　Bunkamura オーチャードホール

指揮:小林 研一郎

チェロ:上野 通明*

コンサートマスター:依田 真宣

ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 ロ短調 作品104* (約40分)

I. アレグロ / II. アダージョ・ノン・トロッポ / III. フィナーレ, アレグロ・モデラート

— 休憩 —

チャイコフスキー:交響曲第5番 ホ短調 作品64 (約50分)

I. アンダンテ - アレグロ・コン・アニマ / II. アンダンテ・カンタービレ, コン・アルクナ・リチェンツァ / III. ワルツ : アレグロ・モデラート / IV. フィナーレ, アンダンテ・マエストーソ - アレグロ・ヴィヴァーチェ

主催:公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
後援:文化庁文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)
協力:Bunkamura

The 870th Orchard Hall Subscription Concert

Sunday October 18, 2015 Start 15:00 Bunkamura Orchard Hall

Ken-ichiro Kobayashi, *conductor*

Michiaki Ueno, *cello*

Masanobu Yoda, *concertmaster*

Antonin Dvořák: Cello Concerto in B minor, op.104 (ca. 40 min)

I. Allegro / II. Adagio ma non troppo / III. Finale. Allegro moderato

— Intermission —

Piotr Ilyich Tchaikovsky:

Symphony No. 5 in E minor, op. 64 (ca. 50 min)

I. Andante - Allegro con anima / II. Andante cantabile con alcuna licenza / III. Valse. Allegro moderato / IV. Finale. Andante maestoso - Allegro vivace

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra
Supported by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan
In Association with Bunkamura

Attention: Please refrain from using your cellphone during the performance.
Late admittance will be refused during the live performance.

8

【コンサート・パンフレット（冊子形式のため関連ページのみ掲載】

オペラシティ 10/9
オーチャード 10/18
サントリー 10/30

小林 研一郎
指揮
Ken-ichiro Kobayashi
conductor

東京藝術大学作曲科および指揮科を卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞受賞。

世界中の数多くの音楽祭出演の他、欧州のオーケストラを多数指揮。ハンガリー国立交響楽団音楽総監督をはじめ、日本フィルハーモニー音楽監督、アーネム・フィルハーモニー常任指揮者など国内外で数々のオーケストラのポジションを歴任。ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、民間人最高位の"星付中十字勲章"、2010年にはハンガリー文化大使の称号が授与されている。2011年文化庁長官表彰を受ける。2013年には旭日中綬章が授与された。CDはオクタヴィア・レコード他から多数発売されている。著書に『指揮者のひとりごと』。1999年には管弦楽曲「パッサカリア」を作曲、同年オランダで初演され大好評を博した。2002年にはプラハの春音楽祭オープニングコンサートを東洋人として初めて振るなど、最も活躍し注目されている指揮者。

現在、日本フィルの桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルおよび名古屋フィルの桂冠指揮者、読売日響の特別客演指揮者、九響の首席客演指揮者、東京文化会館音楽監督、東京藝術大学、東京音楽大学およびリスト音楽院名誉教授などを務める。2012年7月より東京文化会館音楽監督に就任。

Ken-ichiro Kobayashi studied composition and conducting at the Tokyo National University of Fine Arts and Music. In 1974, he received both the first prize and the special award at the first International Conductor's Competition of Hungarian Television in Budapest. Presently Kobayashi holds positions at the Japan Phil. (Honorary Conductor Laureate), the Hungarian National Phil. (Conductor Laureate), the Nagoya Phil. (Conductor Laureate), MATAV Hungarian Symphony Orchestra (Principal Guest Conductor), and the Kyushu Symphony (Principal Guest Conductor).

He is also a professors emeritus at the Tokyo National University of Fine Arts and Music, the Tokyo College of Music and Franz Liszt Academy of Music. Kobayashi received the Liszt Memorial Decoration, the Hungarian Order of Culture and the "Middle Cross with the Star" decoration from the Hungarian government. In 2011 he received the Japanese "Commissioner for Cultural Affairs Award", and in 2013 he was awarded The Order of the Rising Sun, Gold Rays with Neck Ribbon. Kobayashi has released numerous recordings from Canyon Classics and Octavia Records.

上野 通明
チェロ
Michiaki Ueno
cello

パラグアイに生まれ、5歳よりチェロを始める。幼少期をスペイン、バルセロナで過ごす。13歳で第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール、日本人初の優勝。第6回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽器部門最年少第1位、ルーマニア大使館賞、ルーマニアラジオ文化財団賞を併せて受賞。翌年ルーマニア各地で5回の連続演奏会に出演。第10回東京音楽コンクール弦楽部門第2位。2014年オーストリア、ペルチャッハで開催された第21回ヨハネス・ブラームス国際コンクール第1位。これまでに東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、ロシア交響楽団等、国内外のオーケストラと多数共演。韓国KBSテレビ「クラシックオデッセイ」、テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHKBS「クラシック倶楽部」、NHKFM「リサイタル・ノヴァ」に出演。岩谷時子音楽文化振興財団より「第1回Foundation for Youth」、「岩谷時子賞特別賞」受賞。宗次エンジェル基金、ロームミュージックファンデーション、江副記念財団奨学生。日本ヴァイオリン特別楽器貸与対象者。現在桐朋学園大学ソリストディプロマコース全額免除特待生。毛利伯郎氏に師事。

Michiaki Ueno was born in Paraguay and spent his childhood in Barcelona where he won many competitions for young performers.

Since 2004 he has lived in Japan and is currently studying at the Toho Gakuen School of Music - Soloist Diploma Course in Tokyo under Hakuro Mori with a full scholarship. In 2009 he won at the 6th International Tchaikovsky Competition for Young Musicians in age of thirteen (South Korea). In 2010 he won the first prize at the 6th Romanian International Music Competition. In 2012 he won the 2nd prize in the 10th Tokyo Music Competition and in 2014, he took the first place in the 21st Johannes Brahms International Competition in Portschach in Austria.

As soloist he has performed with many orchestras such as, Tokyo Philharmonic Orchestra, New Japan Philharmonic Orchestra, Tokyo Symphony Orchestra, Japan Philharmonic Orchestra, Russian Symphony Orchestra and beyond. He has participated in the Pablo Casals Festival in Prades (Spain) and in the Kronberg Academy masterclasses (Germany).

He is given the special support from "Nippon Violin" and also generously supported by the "Iwatani Tokiko Foundation", the "Japan Federation of Musicians" "Rohm Music Foundation" and "The Ezoe Memorial Foundation".

東京フィルハーモニー交響楽団
Tokyo Philharmonic Orchestra

1911年創立。2011年に日本のオーケストラとして最初の100周年を迎えた、日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバーは約140名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。桂冠名誉指揮者はチョン・ミョンフン。2015年4月より、ミハイル・プレトニョフを特別客演指揮者に、アンドレア・バッティストーニを首席客演指揮者に迎えた。

Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会を中心とする自主公演、新国立劇場を中心としたオペラ・バレエ演奏、「ニューイヤー・オペラコンサート」「題名のない音楽会」「東急ジルベスターコンサート」などの放送演奏により全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。

海外公演も積極的に行い、2013年12月に韓国・大邱市の招聘により日本から唯一アジア・オーケストラ・フェスティバルに出演、2014年3月にはアジア・欧米6か国を巡るワールド・ツアーを行い国内外の注目を集めた。1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。また東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With more than 150 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. This season, TPO is proud to have appointed Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor and Maestro Andrea Battistoni as Principal Guest Conductor. TPO Honorary Conductor Laureate, Maestro Myung-Whun Chung, has been conducting TPO since 2001.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad such as the "Friendship Tour for the Future" in Korea and China with Maestro Myung-Whun Chung (2005) and the Asia Orchestra Festival invited to represent Japan by Daegu City, Korea (2013). In March, 2014, TPO became a global sensation in its centennial world tour of six major cities: New York, Madrid, Paris, London, Singapore and Bangkok.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

公式ウェブサイト Official Website http://www.tpo.or.jp/
https://www.facebook.com/TokyoPhilharmonic https://twitter.com/tpo1911

【コンサート・パンフレット（冊子形式のため関連ページのみ掲載）】

《楽曲解説》

解説＝松岡 由起

10/18　第870回オーチャード定期演奏会

ドヴォルザーク(1841-1904)
チェロ協奏曲 ロ短調 作品104

I. アレグロ (約16分)
II. アダージョ・マ・ノン・トロッポ (約11分)
III. フィナーレ. アレグロ・モデラート (約13分)

ドヴォルザークは、交響曲第9番『新世界より』、弦楽四重奏曲第12番『アメリカ』などで知られる、チェコの作曲家である。彼は1891年にプラハ音楽院の作曲科教授となり、翌1892年ニューヨーク・ナショナル音楽院から巨額の年俸を提示されて院長の打診をうけ渡米、その後1895年まで同音楽院の院長を務めた。

チェロ協奏曲は1894-1895年、『新世界より』や『アメリカ』と同じく、**アメリカ時代**に作曲された作品。本作品作曲のきっかけを作ったのは友人のチェロ奏者ハヌシュ・ヴィハンであり、そして本作品の作曲意欲をかきたてたのは、アメリカの作曲家でチェロ奏者のヴィクター・ハーバートである。ドヴォルザークはハーバート作曲のチェロ協奏曲第2番を演奏会で聴き、とりわけオーケストレーションのバランスに強い刺激を受けたという。

また、本作品では、彼の初恋の人であり、妻の姉でもあったヨゼフィーナ・チェルマーコーヴァーとの関わりも重要な意味を持つ。作曲当時、彼女は重い病気にかかっており、それを知ったドヴォルザークは本作品第2楽章に彼女の好きなドヴォルザークの『4つの歌曲』の第1曲「私をひとりにして」の旋律を使用した。しかし、それだけではなく、1895年に彼がボヘミアに帰郷し、その後彼女が亡くなると、彼は主に終楽章の終結部を作り直すことになる。

第1楽章はクラリネットによって重く沈んだ第1主題、ホルンによって柔らかな第2主題が奏されたのち、独奏チェロが即興風に第1主題を展開していく。**第2楽章**はクラリネットの素朴な主題で始まるが、中間部はト短調に転じ厳かな音楽となり、その後先述の歌曲の旋律が独奏チェロによって朗々と歌われる。**第3楽章**はロンド形式で、はじめ独奏チェロが決然と舞曲風のロンド主題を奏で、のちに作り直された曲の終結部では過去への想いを馳せるかのごとく、第1楽章の第1主題および第2楽章の歌曲の旋律が回帰する。

[楽器編成] フルート2(2番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、トライアングル、弦楽5部

譜例 運命の主題

チャイコフスキー(1840-1893)
交響曲第5番 ホ短調 作品64

I. アンダンテ－アレグロ・コン・アニマ (約16分)
II. アンダンテ・カンタービレ、コン・アルクナ・リチェンツァ (約14分)
III. ワルツ. アレグロ・モデラート (約6分)
IV. フィナーレ. アンダンテ・マエストーソ－アレグロ・ヴィヴァーチェ (約14分)

チャイコフスキーは、生涯に6つの交響曲を残している(『マンフレッド交響曲』を除く)。交響曲第5番は第4番のおよそ10年後の1888年に作曲された作品である。

1888年頃は、チャイコフスキーが指揮者として初めて外国演奏旅行に出掛けた頃である。そこでチャイコフスキーはブラームスやグリーグ、ドヴォルザークに会ったという。

そして、その演奏旅行を終えて書かれた作品が**交響曲第5番**である。チャイコフスキーは、1888年3月、弟モデストに「この夏、私は交響曲を書くつもりである」と手紙を書いているが、同年5月には思うように進まなかったのか、この交響曲創作への不満をもらしている。ただその後はどうにかアイディアをひねり出し、同年6月にスケッチが完成、8月にはオーケストレーションも完了した。

なお、最初期のスケッチには、第1楽章の標題の草案がある。「序奏。運命の前での、あるいは同じことだが、人に計り難い神の摂理の前での完全な服従。アレグロ。I. ×××に対する不満、疑い、不平、非難。II. 信仰の抱擁に身を委ねるべきではないか???もし実現できれば、すばらしい標題だ」(森垣桂一訳、訳文ママ)。しかしながら、このアイディアは採用されなかったため、完成された交響曲のなかでどの程度この標題的なコンセプトが見出せるかは難しいところである。

この交響曲で軸をなしているのは、一般的に「**運命の主題**」と呼ばれるものである **譜例** 。この主題は全楽章に登場し、作品全体を有機的に結びつけている。

第1楽章　ホ短調、序奏付きソナタ形式。序奏でクラリネットが重々しく「**運命の主題**」を提示する。少しテンポが上がったところからは提示部となり、クラリネットとファゴットがリズミカルな第1主題を奏でる。ニ長調に転じ、穏やかで歌うような第2主題がヴァイオリンによって奏されたのち、展開部へと入る。再現部はファゴットで始まり、終結部では第1主題が押し進められ、最後は低音域の楽器群に吸い込まれ、仄暗く閉じられる。

第2楽章　ニ長調、三部形式。低音域の弦楽器から始まり、その弦楽器を背景にホルンが甘美なソロを奏でる。オーボエによる副旋律が導入されると、嬰ヘ長調へ転じ明朗になるとともに、背景の弦楽器も規則正しい細かな刻みへと変化する。中間部に入ると嬰ヘ短調となり、クラリネットを皮切りにその悲しい調べは様々な楽器に受け継がれ、トランペットを中心に力強い「**運命の主題**」に突入する。弦楽器のピチカートが聴こえてくるところからは再び主部である。突如2度目の「**運命の主題**」がけたたましく響き緊張が走るが、最後は穏やかに静謐に閉じられる。

第3楽章　イ長調、ワルツ。冒頭でヴァイオリンが奏でる主旋律はまさしく優雅なワルツを感じさせる。嬰ヘ短調に転じ、ヴァイオリンが細かで速い動きに切り替わるところからは中間部である。再現部ではその細かで速い動きを背景に、オーボエが主旋律を奏でる。終結部では「**運命の主題**」がさりげなくクラリネットとファゴットによって顔をのぞかせ、最後はフォルティシモで終わる。

第4楽章　ホ長調、序奏付きソナタ形式。冒頭から弦楽器により「**運命の主題**」が力強く登場する。付点リズムの動機が徐々に音楽を盛り立てていき、一瞬音楽は落ち着いたと思われるが、次の瞬間スピードが上がり、激しく第1主題が登場する。音楽はめまぐるしく変化していき、ニ長調で木管楽器による流れるような順次下行の第2主題が登場する。その流れのなかで金管楽器により「**運命の主題**」が華々しく現れる。展開部は野性的に第1・第2主題が展開され、最終的にピアニシモになるが、それは再現部のフォルティシモの力強い音楽によって打ち破られる。音楽が壮大さを増していくなかで、金管楽器による「**運命の主題**」が鳴り響く。終結部でも「**運命の主題**」が弦楽器をはじめとして勇壮に奏でられ、最後は勢いにのって途中第1楽章の第1主題をはさみながら、堂々と閉じられる。

[楽器編成] フルート3(3番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、弦楽5部

まつおか・ゆき(音楽学)／桐朋学園大学、慶應義塾大学大学院修士課程(美学美術史学専攻、音楽学)を経て、現在同大学大学院博士課程在籍および国立音楽大学音楽研究所研究員。専門はバーンスタインをはじめとする20世紀アメリカ音楽。